民泊学習

発行日 2025年1月20日
発行者 浦幌町立中央小学校
浦幌川倉山4
発行者 桜井真奈子
浦上6

民泊で林業体験!! 大変だった薪割り!

浦幌町では、民泊学習という体験学習をしています。民泊学習は、一泊二日で行われ、町内の一次産業を体験することができます。私達は、浦幌本町にあるMKという会社で林業を体験してきました。そして、今まで知らなかった林業の秘密をたくさん発見してきたので、みなさんに紹介していきます。

私達は林業体験そして、薪作りをしました。

薪にする前の丸太は、長さが四十センチメートルぐらいで、重さは十キログラムぐらいあると感じました。この丸太を持ち上げて台の上に乗せました。すごく重くて、大変でした。

台の上に丸太を置くと、縦向きの刃が動いて来て、丸太を縦半分にします。二つに割れた丸太を重ねたまま台の上で九十度回して置き直します。すると、刃が動いて来て、また縦半分にします。そうすると、丸太は四分の一の大きさの薪になります。四等分された薪をいそいでカゴに入れました。台の上を空けないと次の丸太が置けないからです。この作業をくり返して、薪にしていきます。

しかし、丸太は、二十本以上あり「いつ終わるのかな?」と思いました。重くて大変な作業なので、黙々と作業を続けました。すると、不思議と慣れてきて、作業が簡単になってきました。そして、二十本以上あった丸太を割り終えることができました。

丸太を割り終えた時は、疲れていましたが、すごく達成感があり、みんなで喜びました。

私は、初めて薪割りを体験しました。体験する前は、丸太をオノで割っていると思っていましたが、しかし、専門の機械があり、便利だと思いました。重くて大変なかたい丸太を簡単に二つに割れるので、すごいパワーしだと思いました。しかし、台の上に置くのは、人の力なので、いつもやっている木下さんは、とてもすごい人だと思いました。

大変な作業だったけれど、最後は上手になったので、また挑戦したくなりました。

温泉に使われているウッドチップ

わたしたちは、木からできているウッドチップという物を見ました。形は四角くて、ウッドチップすっぺらいものです。そして、当り前ですが木の香りがしました。気持ちが落ち着く、好きな香りでした。

ウッドチップを作っている工場を見せてもらいました。ウッドチップを作っている機械は、建物のなかにあるのですが、できたウッドチップは、建物の外に出てきました。建物のなかでは、機械に太い木を入れていました。木を回転させて、皮をむいていました。その後、機械の中に太い木が送られ見えなくなりました。わたしは、機械のなかで、スライスされているのかなと思いました。

今回、体験させてくれた木下さんの所では、ウッドチップを町内の留真温泉の水を温めるための燃料に使っていると教えてくれました。他の利用方法を調べてみたら、花壇の雑草対策や庭や公園の景観を高めるために利用されていることがわかりました。

木は、大きさや形を変えるだけで、利用方法が変わるのが とてもおもしろいと思いました。これからは、ウッドチップの利用されている場所や利用方法について、町の中で気にして見ていきたいです。

木の粉おがこ

薪割りの時に、丸太をたくさん乗せたトラックが、倒着しました。荷台いっぱいに丸太が積まれていましたが、そのトラックが前進したり、バックしたりしていたのかなと思って見ていたら、きれいに積んであった丸太がくずれ、少しずつ地面に転がり落ちていきました。私は、トラックの前後の動きだけで、全ての丸太を下ろし終えていたのですごい工夫だと思いました。

こうして一日目の体験が終わりました。何もかもが初めての経験だったし、力仕事もしたので、とても疲れました。

しかし、私達中央小の二人と浦幌小の二人が協力でしたので 充実した一日目でした。

この後、木下さんの家で、夕飯を作ったり、ボードゲームをしたりして交流しました。

上の写真を見てください。このふわふわしているものが「おが粉」です。木をけずってみる作ったものです。触ってみるとやわらかくて、ふわふわしていました。かたい木からできたと思うと不思議でした。この「おが粉」が、倉庫に大量に積まれていました。わたしは、粉雪のようでもあるし、砂場のようでもあるので、おが粉の山で泳いでみたいと思いました。そして、おが粉が大量にあるので、倉庫にサウナのような香りが充満していました。すごくいい香りだと思いました。

木下さんから、おが粉は牛の布団の役割をしていることを教えてもらいました。浦幌町は、らく農やちくさん産業がさかんな町なので、とてもいいと思いました。そして、林業、他の産業がつながっていることを初めて知り、とてもすごいと思いました。

学校にもどってから、おが粉について調べてみました。おが粉は、果物や卵など傷つきやすい物を輸送する時の保護材に使われていました。他には、虫の飼育やきのこの苗床などに使われていました。「おが粉石けん」というものもあり、様々な分野で利用されていて、おどろきました。

わたしは、林業の仕事というのは、木を植えたり、育てたり、切ったりすることだと思っていました。しかし、おが粉について調べたことで、様々な利用方法があることがわかりました。

木の粉が、農業や漁業の役に立ち、牛や虫の生活にも役立っていておどろきました。そして、林業は、どんな木も捨てるところがなく、木をとても大切にしていることがわかりました。

木からできている木炭

民泊学習の二日目に、木炭を作っている場所を見学しました。木炭にする木は、長さが一メートル五十センチメートルもあるそうです。わたしの身長と同じぐらいなので、思ったよりも大きくてびっくりしました。持ってみようと思いましたが、すごく重くて、持ち上げることができませんでした。

木炭になる木を割っているところを見ました。機械で割っていましたが、とてもゆっくり刃が動いていました。わたしたちが見ている時は、パキパキと音を立てて きれいに割れていました。しかし、割った木が飛ぶこともあり、安全を心がけて仕事をしているそうです。

木炭も見せてくれました。色は黒く、こげたようなにおいがしました。手に持つと、とても軽くておどきました。木炭と木炭をぶつけて音を聞いてみました。

木炭の利用の仕方がたくさんあることがわかりました。テレビコマーシャルで、はみがき粉にも炭が利用されているのを見ました。炭は、おもしろいと思いました。他にはたらきがあるか調べてみたいです。

カンカンと高い音がしました。何度かの音を鳴らしているうちに、木炭が砕れてしまいました。

バーベキュー用の木炭以外にかざり炭という炭がありました。かざり炭は、細い枝で作られていました。調べてみると、木の実や花も炭になっていました。部屋のかざりだけでなく、空気をきれいにしたり、においを消したりするはたらきもありました。

木炭を作っているところを見学して、木は炭になると色も大きさもにおいも変わって、すごいなと思いました。また、炭の利用は、バーベキューなどの燃料だけでなく、かざりにも使われていて、炭の利用方法がたくさんあることを初めて知りました。

おがこからペレット

わたしたちは、民泊学習で木からできている「おがこ」を使った「ペレット」という燃料を見せてもらいました。工場には、袋入りの商品とできたてのペレットがありました。ペレットを作っている機械は、想像していた物よりも大きかったので、びっくりしました。できたてのペレットに触れてみたら、すごく熱くて、長く触れていることができませんでした。

「ストーブの燃料に使っているよ」と聞いた時は、おどろきました。見た目は、小さいカプセルのような形で、おがこが、そのカプセルに入っているように見えました。

あたしは、初めてペレットという言葉を聞き、燃料のことだと思いませんでした。木材は、姿や形を変えて、生活を支えていると思いました。

まとめ

わたしたちは民泊体験で、とても貴重な経験をすることができました。ウッドチップやおが粉という物があることを初めて知りました。また、町内で作っているウッドチップが、町内の温泉を温めていることも教えてもらいました。よく利用している温泉が、温められていることにも、ウッドチップを使っていることにもおどろきました。

また、木を加工してペレットという燃料にしたり、木炭にしたり、様々な利用方法があることも初めて知りました。

この民泊体験では、知らなかったことをたくさん知ることができました。特に強く感じたことは、林業は、久々の生活と関係しているということです。もし、林業をする人がいなくなったら、生活の様子が変わってしまうと思います。多くの仕事にも影響が出ると思います。林業は、とても大事な仕事だと思いました。